

# 日本の伝統織物縮緬

生活環境デザイン学科 井上 尚子

## 1. はじめに

和服地の素材を分類するときに、「織のきもの」「先染めのきもの」といわれる反物と「染めのきもの」「後染めのきもの」といわれる白生地大きく分類される。織のきもの地は「有練織物」、白生地は「無練織物」と呼ばれている<sup>1)</sup>。有練織物は織物になる前に精練された織物であり、無練織物は織物になった後に精練された織物である。和服地の素材の多くは絹であり、有練織物の代表的な織物は紬、無練織物の代表的な織物は縮緬、羽二重である。そのなかでも、友禅や小紋などに使用されている縮緬についてとりあげる。

## 2. 日本の絹織物の生産量

世界の主要繊維需要量は図1に示すように年々増加してきており、中でも化学繊維や綿が多い。絹は全繊維需要量の0.16～0.25%で、2014年には0.17%と少ないが、絹の需要量は、2008～2014年では、ほぼ同程度の量である。図2は国内における織物の生産量を示している。織物の生産量は化学繊維織物と天然繊維織物を合計して1970年をピークに、2009年にはピーク時の13.8%となったが、その後、ほぼ同程度の生産量を維持している。図3に国内における天然繊維織物の生産量を示す。絹織物の生産量は1980年には151,889千平方メートル、2005年には20,417千平方メートルであったが、2014年には2,734千平方メートル<sup>2) 3) 4)</sup>で1980年の生産量の1.8%の量になっており、毛織物や綿織物と比較して、著しく減少している現状である。

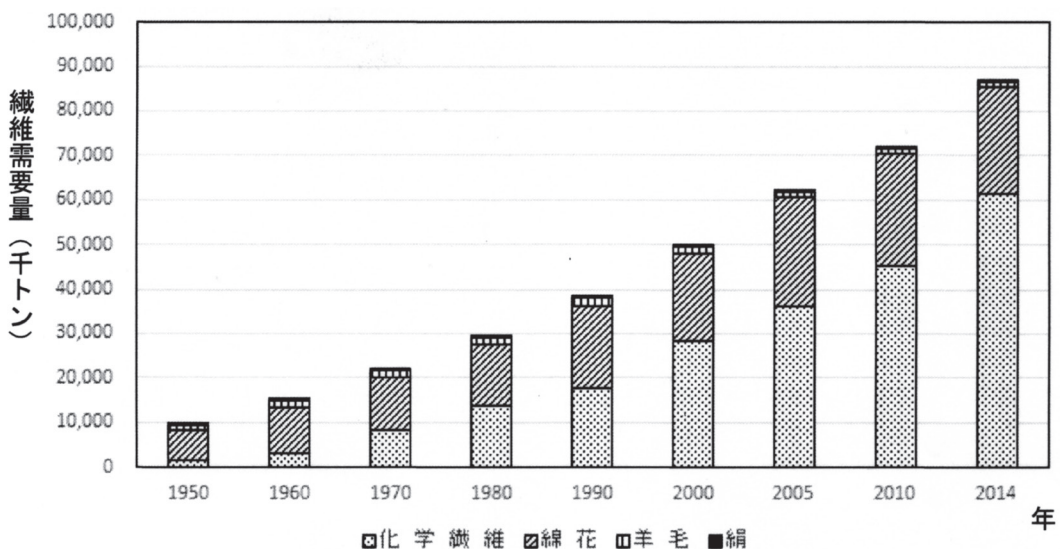


図1 世界の主要繊維需要量 <sup>2) 3) 4)</sup>より作成、但し 4)では繊維生産量

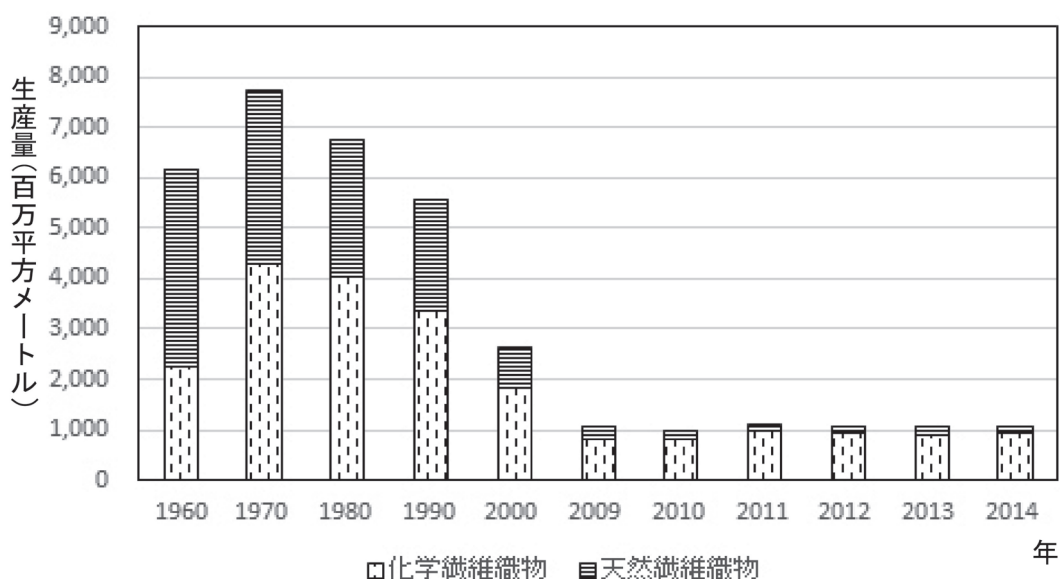


図2 国内主要繊維品生産量 2) 3) 4) より作成

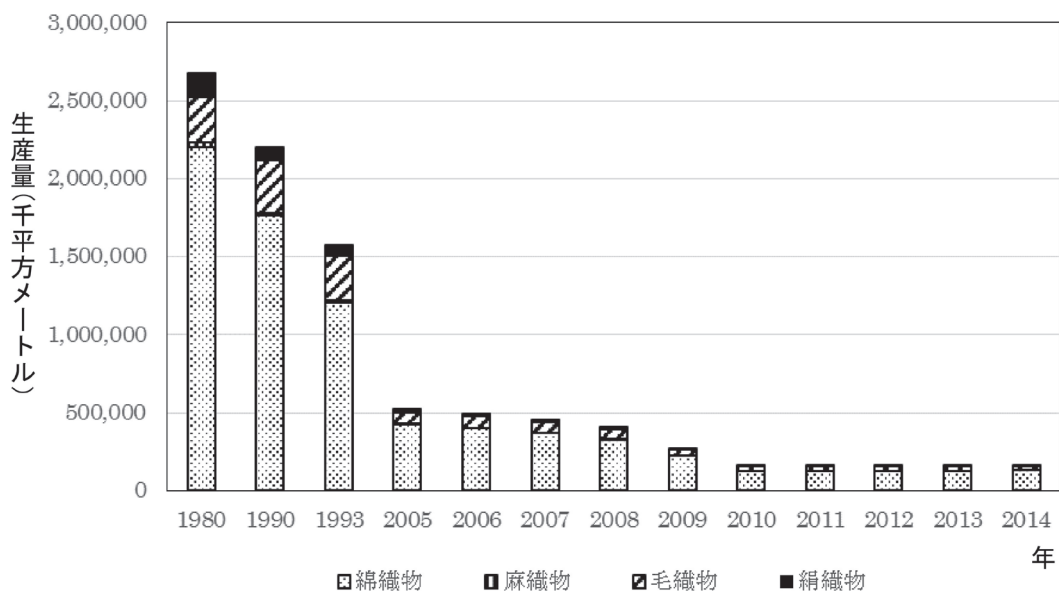


図3 国内天然繊維織物生産量 2) 3) 4) より作成

### 3. 縮緬の産地と縮緬の種類

縮緬は日本の代表的な伝統絹織物である。縮緬の産地は、丹後縮緬を生産する丹後峰山地方と、浜縮緬を生産する長浜地方が代表的な産地である。ほかに岐阜縮緬、福井春江縮緬を生産する岐阜、北陸や桐生などである。丹後織物工業組合の資料によると丹後産地では織機台数、組合員軒数ともに昭和46年と比較すると平成28年では約1/10となっており、

生産反数も減少し、年々減少傾向にある。

縮緬は経に引き揃え生糸、緯に右撚り、左撚りの強撚の緯糸をそれぞれ交互に織った後、精練することによって、セリシンを洗い流して縮ませて、皺（しぼ）を表出させた織物で、独特のドレープ性のあるシルエットを醸し出す。右撚り、左撚り強撚の緯糸を1本ずつそれぞれ交互に織った一越縮緬、2本ずつそれぞれ交互に織った二越縮緬、4本交互、6本交互、8本交互、の四越縮緬、六越縮緬、八越縮緬、4－8本交互の鶉縮緬<sup>5)</sup>などがあり、布表面の凹凸（皺立ち）の大小や、原料の生糸以外に玉糸や紡績糸を使用したり、紋様を織りだしたりすることによる組織の違いなどで分類されている。この皺（しぼ）が、独特の衣服のドレープ性や染色効果を与えている。

#### 4. 縮緬の力学特性の特徴<sup>6)</sup>

各縮緬試料グループごとにどのような特徴があるのか調べるために、表1に収集して分類した縮緬布グループを示す。各縮緬布グループごとの力学特性値の平均値とその標準偏差値を検討した結果、それぞれ特徴的な力学的性質の範囲が示された。すべての各縮緬布グループの緯の曲げ特性値は同程度の大きさで、他の衣類の特性値と比較すると、紳士用、婦人用スーツ地、ドレスシャツ地と緯の曲げ特性値が同程度の大きさの範囲をもち、引張り特性値も、紳士用、婦人用スーツ地とほぼ同程度であることがわかった。

さらに、一越縮緬と古代縮緬は、引張り特性や、表面特性値、布の厚さ、重量から、表面に皺のあること、縮みやすいという欠点があげられる理由などがわかった。綸子縮緬の表面特性値は各試料グループの中で最も小さく、なめらかであることや、変わり無地縮緬は布の厚さ、重量ともに小さく、一越縮緬、古代縮緬と比較して引張り特性値が小さいことなどがその特徴として捉えられている。

表1 縮緬試料グループ

縮緬	特徴
一越縮緬	皺が細かい。
古代縮緬	一越縮緬より大きな皺がある。二越縮緬ともいう。
変わり無地縮緬	一越縮緬より皺が小さい。
紋意匠縮緬	文様を織りだした縮緬。緯二重織縮緬。
駒綸子・平綸子縮緬	文様を織りだした縮緬。
風通縮緬	地紋の部分を二重織にして地紋を立体的に織り上げたもの。

#### 5. 縮緬の風合い<sup>6)</sup>

縮緬の風合いは、縮緬の品質に影響を及ぼす、こし (stiffness)、てかさ (hand quantity) の官能評価を手触りによって実施することによって客観的に評価している。“こし”とは触って得られる可撓性、反発力、弾性のある充実した感覚、例えば、弾力性のある繊維や糸で構成されている、また、適度に高い糸密度の布の持つ感覚である。“てかさ”

とは、かさ高でよくこなれたふくよかな布の感覚、圧縮に弾力があり、暖かみを伴う厚み感と定義<sup>7)</sup>されている。標準サンプルを基準感覚とし、これと対比して、平均的なものを5として、強いものから弱いものまで10段階で数値化を行った。次に、縮緬の風合いの主観的評価値と布の力学特性値との関係进行分析した結果、こしには曲げ特性、ことに緯の曲げ特性、布の厚さ、重量が、てかさには、布の厚さ、重量が大きく関与していることがわかった。きものは緯方向に巻きつけて着用する構造から緯の曲げ特性がことに重要となっているのであろう。

## 6. おわりに

日本の伝統織物縮緬はその種類によって表面形状や風合いなどに特徴があり、和服地のみでなく洋服地としても使用できる。長い年月をかけて発達し、全国に広まった織物であり、染色方法も含めて、その製布工程は独特である。昔ながらの撚糸をしている工場は少なくなっているとの声をうかがった。貴重な技術を継承し、新しい技術を次世代につなぐべく努力をされている現状である。

### 引用・参考文献

- 1) 石崎忠司：和服地，衣生活研究会，1969
- 2) 繊維ハンドブック，日本化学繊維協会，2016
- 3) 繊維ハンドブック，日本化学繊維協会，2013
- 4) 繊維ハンドブック，日本化学繊維協会，1995
- 5) 被服文化協会編：服装大百科事典，文化服装学院出版局刊，1969
- 6) Takako Inoue and Masako Niwa：Hand Evaluation and Formability of Japanese Traditional 'Chirimen' Fabric, International Journal of Clothing Science and Technology, Vol.22, No. 4, 234 ~ 247, 2010
- 7) 川端季雄：風合い評価の標準化と解析，風合い評価と規格化研究委員会，日本繊維機械学会，1980